

## 第 26 回 西区地域福祉保健計画推進・評価委員会 議事要旨

開催日時 令和6年7月1日(月) 14時00分 ~ 16時00分

開催場所 西区役所3AB会議室

出席者

計 23 名

平野委員、大塚委員、澁谷委員、米岡委員、武田委員、伊藤委員、並木委員、深野委員、早川委員、竹下委員、田島委員、芝野委員、鳴神委員、妹尾委員、北井委員、渡辺(正)委員、石渡委員、寺岡委員、佐藤委員、福永委員、齊藤委員(中田委員代理)、和知委員、菊地区長

【意見交換進行】

西尾 敦史氏(愛知東邦大学教授:にこまちプランアドバイザー)

【事務局】牛頭福祉保健センター長、岩崎福祉保健課長、桑原事業企画担当係長、安部事務局長(西区社協)



議事等

### ○ 開会

#### 1 区長挨拶

西区地域福祉保健計画(通称:にこまちプラン)は、今年度が第4期5か年計画の4年目にあたり、令和8年度より第5期にこまちプランがスタートします。新型コロナウイルス感染症の影響で困難な時期もありましたが、みなさまの様々な工夫によって第4期にこまちプランが策定・推進されています。本日はこれまでの3年間を振り返り、第4期計画の更なる推進及び第5期計画の策定に向けて、これからさらに地域の皆様が幸せになれるようにご意見を頂きたいと考えております。

また、能登半島地震から半年が過ぎようとしています。現在でも避難所に多くの方が避難している状況です。防災に関してもしっかりと取り組みを進めていきます。

西区制 80 周年の盛り上がりとともに、結束力を高めてまいりますので、様々なご意見を頂きたく、よろしくお願いいたします。

#### 2 西尾教授挨拶

にこまちプランについては、第4期計画策定から関わっていますが、西区では、地域の皆さま、関係機関の皆さまが非常に熱心に取り組まれていると感じています。

本日は、第4期にこまちプランの振り返りを行うとともに、令和8年度からの第5期をどのような方向で策定していくのかを考える非常に重要な会議になるかと思っておりますので、ぜひ積極的なご発言をお願いできればと思います。

### 3 委員長の選任：平野委員が委員長に選出される

#### 4 議事

(1) 第4期にこまちプランの概要と第5期計画の策定について

事務局説明：桑原事業企画担当係長

(2) 第4期にこまちプランの振返りについて

イ 区全体計画の振返りについて（意見交換）

事務局説明：桑原事業企画担当係長

#### 主な意見

##### 目標1 安全が確保され、安心なまち

- 第五地区では地区懇談会で防災・減災部会を立ち上げ、地域のメンバーと話し合っている。自治会町内会ごとに世帯数や構成される住宅の種類が異なり、これによって防災に対する考え方や取り組み方も違ってくると感じている。また、高齢者や障害のある方など災害時要援護者支援の取組も行っているが、訪問を断られてしまう場合もあり、支援の進め方について課題となっている。

他にも、通学先の学校と避難先の防災拠点が異なるという課題に対して検討を始めた。今年度の防災訓練などで取り組みたいと考えている。

- 障害児者は発災時に地域防災拠点に避難するのが難しく、基本的には在宅避難となるのではないかと考えており、当事者間での共助も話し合っている。

西区災害ボランティアネットワークについて、地域防災拠点の中でも知っている方が少ないと感じている。様々なボランティアの仕組みがあると思うので、地域のボランティアの方が災害ボランティアネットワークの活動に参加しながら、発災後のボランティア運営について考える取組を、地域防災拠点の運営の仕組みの中で早期に検討してもらいたい。

- 障害のある方の避難は簡単ではなく、普段から顔の見える関係をつくっていくことが非常に重要と思う。障害のある方もない方も住民同士が交流し、日頃からお互いに知り合うことが大事だと考えている。

各事業所では自助はもちろんのこと、事業者間の共助も考えているが、能登半島地震を受け、支援者も被災することが予想される状況で、実際にどれくらい活動できるのかわからないという話が事業所間でも出てきている。また、障害のある方は発災により非常に強いストレスがかかると予想されるので、災害関連死に対する対策も考えていか

なければならない。こうしたことから、発災時に本当に福祉避難所が開設できるのか、また、その運営について、公助の部分をもっと考えていく必要がある。

地域防災拠点の訓練への参加について色々考えてくださっているが、参加へのハードルがまだ高いと感じているという意見もあり、地域の方から声をかけて頂けると非常にありがたい。

## 目標2 活気にあふれ、健康なまち

- 朝食を食べることの大事さはもちろんのこと、食事をそしゃくし栄養をとれることが重要だと思う。令和4年度に区と共催でオーラルフレイル（口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含む、身体の衰え）講演会を実施した際、講師が肉などの動物性のたんぱく質を噛んで摂るということが大切と話しており、その通りだと考える。きちんと噛めず、左右の噛み合わせがアンバランスな状態が続くと転倒しやすくなり、高齢者の場合は骨折がそのまま日常生活の自立度の低下につながる。

また、歯周病が重篤化し、歯周病菌が血液の中に入ると脳梗塞など様々な疾病を引き起こす。引き続き行政と協働し、オーラルフレイル予防啓発活動に力を入れていきたい。

- 健康寿命を延ばすための取組は、運動や食事など非常に広い範囲に渡るため、保健活動推進員は、まずは研修を受けるなどして一つひとつ知識を身に付けている。そこで得た知識は、地域のお祭りやイベントなどで健康チェックなどの機会を通して、地域の方にお伝えしている。インターネットでの動画配信など、最近は様々な啓発方法があるので、これからも工夫しながら取り組んでいきたい。

- 朝食を食べない人が非常に多いことがわかっているが、子育て世代の食生活改善を啓発する機会がなかなか見つからず、今後、開拓していきたいと考えている。

今年度、高齢・障害支援課が行う体力測定会にて、健康を維持するための食事について啓発活動を行う予定である。

また、昨年度からヘルスマイトは防災の勉強会を行っており、在宅避難時に健康を維持するための食事について、レシピ集の発行準備を進めている。

## 目標3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち

- 高齢者福祉関係分科会では、昨年度より、認知症の方への理解を深めるため、声掛けの方法など基本的なことから学んできた。当事者家

族の体験談や地域で認知症の方を支援している方に事例を話してもらするなど、良い取組が出来ていると思う。

また、著名人などが、認知症であるということを自ら言ってもらえると、当事者やその家族も心強い。認知症になっても自分らしく暮らせるということが伝わる。

認知症の方も在宅で介護する時代になってきたと感じている。認知症は誰でもなり得るので、できれば小中学生のときから知識を持ち、お互いさまの意識をもって気持ちのつながりが広がっていくと良いと考えている。

- 推進・評価委員会でのつながりがきっかけとなり、自立支援協議会やスマイルポート、民生委員の方などと一緒に「チームにしまる」として、映画上映など地域での障害理解に向けて様々な企画で発信をしている。上映会では、当事者の方から、日常の生活について話をいただいている。こうした取組の継続が、少しずつ障害理解につながっていると感じている。自分たちだけではできることに限りがあるので、色々なところで活動している多くの人と力を合わせて、生きづらさを抱えている人の理解が進むように、取組を続けていきたい。

また、障害福祉関係分科会では、オンラインでの通所事業所の見学会を実施し、地域の方の理解が進んだことを実感した。また、説明した職員だけでなく、当事者である本人たちの声をもっと聴きたいという感想もあり、今後どのような形で実現していくか考えていきたい。

- 移動に関する課題については、障害のある方に限らず、高齢者や子育て世帯などにも共通する課題だが、重度心身障害児者は特に困難な状況だと考える。医療的ケアが必要な場合はスクールバスに乗ることも難しい。家族は、自分の体調が悪くても、車を運転し本人の移動を行っているという現状がある。

車いすの大きさによりタクシーに乗れない課題があるので、地域の方にも知って頂く機会として、企業と連携してタクシー試乗会を検討している。

障害のある方だけでなく、高齢になったら誰もが向き合う問題だと思うので、みんなで考え、企業などとも連携し、横浜の移動の課題に取り組んでいきたい。

- 更生保護に関して、広報よこはまでの保護司会、更生保護女性会、BBS 会の紹介や、この3団体と区社協、区役所と情報交換の場を設けるなど取組を進めることができた。

犯罪や非行をした人が立ち直るためには保護司などの担い手の支援だけではなく、地域の理解と協力が欠かせない。当事者の会や家族の会などがあり、当事者自身も立ち直ろうと努力している。このよう

に立ち直ろうとしていることを地域に知ってもらい、温かく迎え入れてもらえるよう、これからも啓発活動に取り組んでいきたい。

- 障害のある方や刑務所から出所した方などを、地域で温かく迎え入れるために、当事者の方やその家族と顔の見える関係づくりを行っていくことが重要だと考えている。災害時も助け合えるよう、活動に取り組んでいきたい。

第五地区では地域の小中学生等がジュニアボランティア5（ファイブ）として、地域のイベントなどで活躍している。今年度も50名以上の子どもたちが参加する。この活動を通して、子どもたちのお父さん、お母さんにも地域活動の大切さを伝えていきたい。

様々な団体で色々なことに取り組んでいるので、それぞれの活動の趣旨を理解した上で、この会議で意見交換や情報交換をしていきたい。そのための、にこまちプランだと考えている。

#### 目標4 地域全体がつながりを持つまち

- 地区社協は様々な団体の長が集まっているが、第一地区から第六地区まで様々な違いがある中、それぞれの地区で、自分たちには何が一番大事なのかということを考えて、地区社協の活動をしていただいている。

地区社協は、団体の強みを生かして活動のしかたを考えることが重要だ。例えば、食事会をやる際に、地区社協が主催して自分たちだけで開催しても、そんなに多く開催できない。第4地区では、高齢者の食事会が昔から盛んなので、団体の担い手の方に声をかけて、たくさん開催できるようにしている。そうした発想で地区社協は活動してほしいということを地区社協分科会で話している。

- 西区は大規模な商店もあれば、小規模な商店もある。小規模な商店同士、又は大規模な商店同士はつながりをもちやすいが、大規模な商店と小規模な商店がつながることは難しい。

つながり方を工夫することによって、大規模な商店と小規模な商店の関わりを増やせるといいと考えている。

- 高齢になると、出かける先が少なくなり、何かイベントに参加しようとしても、友達に誘われないと行けない人が多い。しかし、ボランティアとして参加を願いますと、お手伝いとして参加してもらえることがあるので、そのような声掛けをしていきたい。

- 地域ケア会議は、孤立しがちな状況にある高齢者などの繋がり・見守りなどをテーマに話し合いを行っている。孤立を予防するために

は、元気なうちから地域とつながることが重要。新型コロナウイルス感染症が5類になり、地域活動も活発になってきた。つながる機会も増えてきたと思う。高齢者だけでなく、認知症の方とその家族、子育て世代の方など、孤立してしまう可能性のある人たち全てがつながりを持てるように、様々な機関が協力して取り組むことが大事だと思う。

様々な機関が丁寧に取り組むことで、地域に住む高齢者の支えになるということ、地域ケア会議で改めて感じる事ができた。

## 目標5 子どもが健やかに成長できるまち

- 第六地区にある『にこにこはうす』について、第六地区の子ども居場所検討会では、平成28年に、西区で最初に子ども食堂を立ち上げ、後に学習支援を行うようになり、今回『にこにこはうす』として開所した。

当初、子どもの居場所として考えていたが、催しに参加した方が別の催しで講師をするなど次々と利用が広がり、様々な年齢の人が利用する場所になってきた。家賃や光熱費など課題はあるが、バザーでの資金集めのほか、地域の方や地区社協とも連携しながら、資金を集め、地域のみんなで支え合う場所になってきている。

- 居場所づくりに関しては、子どもだけでなく、お父さん、お母さんと一緒に活動できる機会をいかに設けるかというのが青少年指導員としての大きな役割だと思っている。どんな機会でも、親と一緒に活動できるのは、子どもにとっては嬉しいものだと考える。子どもの成長の場をいかに設けられるか、そして、子どもとお父さん、お母さんが一緒に笑顔でいられる場をつくるのが大切だと感じている。

- 西区の特徴として、共働き率が高く、妊娠しても出産直前まで働いているので、ゆっくり育児に向き合う時間が少なくなってしまうことがある。一方で、お父さんが積極的に育児参加している方が多いとも感じている。また、子育て相談も増えているが、親自身の問題についての相談も多い。子育てだけでなく、夫婦のパートナーシップなど、親も含めて孤立させないことが重要だと思っている。

子育て支援拠点のことをもっと知ってもらい、早い時期から来てもらうことと、身近な地域の活動等につないでいくことがこれからの課題。色々な情報ツールを使って地域の情報をお知らせするとともに、地域の中で自分の子どものことを知っている人を増やし、困ったときに地域の中でSOSが出せるよう、地道な声かけや取組を続けていく。

ウ 横浜市西区社会福祉協議会課題別分科会の取組について  
横浜市西区社会福祉協議会 安部事務局長

○ 西尾教授 講評

この3年間、それぞれの地区で様々な展開がありました。一つの局面として新型コロナウイルス感染症の流行という大変な困難があり、その中で私たちが学んだことは非常に大きかったのではないかと思います。人と人とのつながりや、コミュニケーションの場がいかに大切であったかに気づくとともに、つながるために、様々な方法が活用できるということ学んだ3年間だったのではないのでしょうか。

様々な生きにくさを感じている方を地区・地域の中で受け止め、協力しながら解決につなげる道筋をどうつくるかということについて、本日の皆様のご報告から学ばせてもらうと同時に、今後のにこまちプラン推進に係る課題として感じました。

(3) 西区アクションプランについて

西区高齢・障害支援課 西澤係長

(4) 地域包括支援センターの運営について

事務局説明：桑原事業企画担当係長

○ 区長所感

本日はたくさんのご意見を頂戴することができました。誠にありがとうございます。課題が多様化してきているため、各団体の皆様のお力を結集していくことこそが、これからの第4期計画の推進、そして第5期計画の策定に向けて大変重要だと改めて認識いたしました。

引き続き、各団体の皆様との結束力を強め、区役所も全力を尽くしてまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

3 その他

次回の推進・評価委員会は12月9日（月）の14時から同じ会場で開催することをご案内しました。

○閉会